

エネルギー&クッキング……………1
 エネルギー研修会ステップアップ編
 …………… 2、3
 あすかの全国ネットワーク……………4
 このごろのエネルギー……………4
 お知らせ……………4
 編集後記……………4
 シンポジウム…………… 別刷

えねるぎっしゅ

NPO法人 あすかエネルギーフォーラム 理事長 秋庭悦子
 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-17-6 いづみハイツニュー茅場町406
 Tel 03-5640-0777 Fax 03-5640-2636 http://www.asca-ef.org

エネルギー&クッキング

平成21年10月5日 電力館にて

食品ロスの少ないクッキングと「食とエネルギーについて」の楽しいトーク

今回で3回目となる人気シリーズ! 54名の参加で開催しました。江上先生には「食材をなるべく捨てずに作るお料理」をテーマに、「とろとろラタトゥイユ 生ハム添え」「鮭の香草蒸し」「パンプキンババロア」の3品をご紹介いただきました。ラタトゥイユは食材を切って煮込むシンプルなもので、江上先生フランス留学の思い出の一品。鮭の香草蒸しは椎茸の茎も入れ、冷蔵庫の中に残っている野菜でOKという主婦にとって有り難い一品。デザートのパバロアはカルシウム、ビタミン、タンパク質が一度にとれるご高齢の方にもお勧めのメニューです。

講師のお二人は息もピッタリ! テンポの良いトークでお料理されました。日本の食糧自給率は約40%なので鎖国をするとメタボの人が少なくなる。ハーブはフランスでは雑草、プランターで栽培すれば地産地消。

お料理は、食材を冷蔵庫で保存しても、調理をしてもエネルギーを使っているのだから、捨てる時にまでエネルギーを使うのはもったいない。残ったものはアレンジしたり、一度にたくさん作って冷凍し、忘れた頃に解凍して出す。等々、食とエネルギー問題を身近な話題で楽しくお話してください、会場は笑いと「なるほど」でいっぱいでした。



当日のメニュー

なお、今回のレシピについてはあすかエネルギーフォーラムの事務局までお問い合わせ下さい。



講師プロフィール

写真右: 神津 カナ氏

作家・エッセイスト、評論家
 執筆活動の他、テレビやラジオの出演や、講演、公的機関や民間団体の審議委員など精力的に活動。

写真左: 江上 佳奈美氏

江上料理学院副院長、料理研究家、フードアドバイザー
 食品メーカー等のアドバイザーも勤める傍らテレビなどでも活躍。

「食品ロスについて」 あすかエネルギーフォーラム

食品ロスを減らす工夫

- ① 買い物に行く前に、冷蔵庫の中にある食材の種類や量を確認する。
- ② 日頃から在庫管理をし、賞味・消費期限を点検・把握する。
- ③ 冷凍保存をしたり、鮮度保持袋等を利用して保存方法を工夫する。

食品ロスについてあすかエネルギーフォーラムのメンバーが発表をしました。

日本の食品自給率は約40%。年間約1900万tの食糧を輸入している一方、500~900万tがまだ食べられるのに捨てられている食品ロス。食品ロスを減らす事はゴミを減らし、エネルギーとお金の節約になると発表。



右から、高田さん、金木さん、石井さん、安井さん。



会場の参加者の皆さん

クイズや意見発表では会場の皆さんが活発に手をあげて参加して下さい、たいへん盛り上がりました。

あすかエネルギーフォーラム 金木文子

全国のネットワーク・11グループの方とあすか会員の30名が、4人の講師から最新のエネルギー事情を学習。

「地球温暖化問題の裏表」

講師 澤 昭裕 氏



プロフィール

経済産業省環境政策課長、東京大学先端科学技術研究センター教授などを経て21世紀政策研究所研究主幹。温暖化対策の国際間交渉の研究、新たな枠組みの提案など環境政策のプロフェッショナル。

講演を聴いて

あすかエネルギーフォーラム 下久保圭子

まず「気候変動枠組条約」「京都議定書」の説明があり、次に、この冬開催される気候変動枠組条約締結国会議(COP15)で、今後の国際交渉に向けて日本政府が取るべき戦略、交渉ポジション、得るべき交渉成果と具体的に列挙され講義を展開された。

我が国の中期目標の達成には1世帯で年間7.6万円の国民負担があり、環境税や省エネ法、排出権取引制度等の国内対策は経済に歪みをもたらし、複数制度導入は経済効率性を破壊すると述べられ、国民に対する積極的な情報開示と説明の努力がはらわれなければならないことを言及された。

次に「次期議定書を巡る国際交渉」について、アメリカ、中国、EUがそれぞれに主張する内容とその背景にある政策的な思惑を解説され、地球温暖化対策を巡る国際交渉は、各国の経済的利害・エネルギーセキュリティの確保などを背景とした経済交渉の性格を色濃く持っていることを示された。

地球温暖化対策は、低炭素社会構築に向けて各国政府、国民の努力を促すものでなければ持続可能なものとならず、国内においては、地球温暖化対策への国際貢献、経済戦争との両立、技術革新の促進などの視点から、官民の国際交渉における日本としてのボトムラインを明確にすることが重要であると述べられ講義を終了した。

私たちが日頃周知していた地球温暖化問題を根幹から見つめ直し、これまで見聞してきた視点とは違う角度から検証・考察し、問題提起する斬新な内容だった。

感想から

地球というエレベーターの中にメタボ3人組とアスリートである日本が乗っていて、その綱の命運は重量的にはメタボ3人組にかかっているという例えは大変わかりやすかった。CO2削減では、日本はすでにやれることをやっていて更なる削減の厳しさは知っていたが、地球全体で考えなければならないと思った。 **あすかエネルギーフォーラム 和田 慈**

「原子力の高経年化と新しい検査制度」

講師 関村 直人 氏



プロフィール

東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻教授。東京大学大学院工学系研究科長特別補佐。システム保全学、軽水炉の高経年化対策、照射損傷論、マルチスケールシミュレーション専門。

講演を聴いて

柏桃の輪 星野美鈴

「高経年化」という言葉は造語で平成7年に作られた日本の言葉（英語にはない）。敦賀の美浜原子力発電所は39歳。世界にあまり例がないので、日本が高経年化の研究の最先端をいっている。

高経年化対策は、経年劣化の管理・定期的な検査・劣化の時間的進行を予測し評価する・国内外での情報を把握する・補修や取替えをする方法を準備するなどがとられている。経年劣化を考えるポイントは、設備や機器に使われる材料の種類と材料の環境、設備や機器の役割などである。

安全に長期間の運転を継続するために、高経年化技術評価制度(30年運転してきた原子炉を60年運転するとして仮定し10年ごとに評価する)があり、また今年の1月から新しい検査制度のもとで保全と高経年化対策が実施されている。

産・学・官が連携し、高経年化対応技術戦略マップの策定、定期的な自己評価、見直し作業を行っている。また技術情報調整委員会があり外へ向けて発信している。

最後に「原子力発電所の寿命は？」ということで法隆寺の五重塔は築1000年を超えている例をあげ、「保守、保全のメンテナンスを適切に行っていけば原子炉の寿命がないのでは？技術面や経済面から運転停止したときが寿命といえる」と話されていました。難しい内容をわかりやすく講義していただき頭の中にスーッと入っていきました。

感想から

日本で一番古い原子力発電プラントが建ってから39年と聞き、私が生まれてから、続々と原子力発電プラントが建設されたのだと実感しました。60年間安全に運転するために、1000ページもある検査項目を点検し、制度作をしている現状を知ることができ、原子力発電所は怖いという漠然とした思いが安心へと変化したように思います。

フリータイム 野呂 敏子

懇親会では、最新の情報を地元で活かそうと話しあい、所属団体の紹介とお国自慢で盛り上がりました。

「緊急時の人間行動～パニック人間行動学」

講師 首藤 由紀 氏



プロフィール
 (株)社会安全研究所取締役副所長。
 災害時、緊急時の人間行動、ヒューマンファクターズ、災害心理学専門。

講演を聴いて

あすかエネルギーフォーラム 長友明子

人間は誰でも慌てた時、普段通りの落ち着いた行動はできない。それを少しでも理解し知識をきちんと備えて問題を減らそう。過去の火災事故の例などから、緊急時の人間行動の特性を整理し、その研究成果は、教訓として消防署や原発に生かされている。私達にできる「あわてず行動するための対策」だが、事前対策としては、実体験訓練をする、身体で覚える。もし事態が起きてしまったら、ひと呼吸おく、声を出してみる、簡単なマニュアルを見る、等がある。

事故が起こる可能性の高いときはメンタル・シュミレーションをする等が挙げられる。本当に怖いのは、危険を知らせる情報があるのに信じないことだ。私達は行動特性に配慮した対策が重要だ。緊急への備えは、慢心しないことから始まる。

先生の優しい雰囲気の中、和やか且つ活発に質疑応答が行われた。原発がこのような角度からも安全性を追求されていることがわかり、より信頼できるものだと確認できた。



質問をし、熱心に受講しました。

感想から

実際の事故や災害の数多くの事例を挙げて、その時人は何を考え、どのような行動をとりがちか、心理学の面からとても具体的に話された。これらはどれも非日常的なことであるが、高経年化と整理下手、視力低下の私は、注意の一点集中・視野狭窄、押しでダメでももっと押し、それでダメなら諦める、終いにはギャンブル的判断で等々、日常的にやっているのが非常に身近なものとしてお話を聞くことができた。

石川エネの会かなざわ 中野許子

「もんじゅ FBRについて」

講師 柳澤 務 氏



プロフィール
 独立行政法人日本原子力研究開発機構特別顧問。
 もんじゅ建設所所長代理、
 新型転換炉ふげん発電所
 所長、大洗工学センター所
 長、敦賀本部長代理を歴
 任。

講演を聴いて

Ene☆Eco Wing 加藤美紀

ウランの確認埋蔵量は100年だが、プルトニウムとして再利用すればこの先数千年資源活用ができると聞き、そのための高速増殖炉や再処理が急務だと思った。

もんじゅの歴史は、事故後10年間は『安全総点検』『高速増殖炉の必要性』『地元・国民への理解活動』『FBR 開発の今後』に取り組んだ。その後3年間はプラント確認試験に取り組み、現在は耐震確認中。今年後半には性能試験前準備に入る予定。120種ほどを載せたトラブル事例集も出来て、毎年手直しをしている。

検査技術の開発も実用化に向けた課題である。ナトリウムは空気にさらせず解体検査が出来ないため、人体に使われる血管検査ロボットやカプセルカメラの様なロボットで内部検査を出来るように開発を模索していると話され興味深かった。

国際協力では、ナトリウム取扱い研修センターに各国から研修にやってくる。2010年にはフランスのフェニックスの運転停止が決まっている、FBRシステムの研修に来日するかもしれない。インドは独自で開発研究をし、ロシア・中国も開発を進めている。

日本の経緯や世界の状況を聞いて、日本は高速増殖炉の実用化を2050年に目標としているが、一刻も早い研究再開(運転再開)が望まれると思った。

感想から

エネルギー資源の無い日本の将来にわたるエネルギーの確保とCO2削減による地球温暖化防止を考えた時、夢の高速増殖炉もんじゅの運転再開は大変喜ばしいことと思っている。事故は、事故として重く受け止め、今後二度と起こしてはならないという信念を持って推進して欲しいと思う。

あすかエネルギーフォーラム 名阪 信親



あすかの全国ネットワーク 「えひめエネルギーの会」

あすかエネルギーフォーラムの全国のエネルギーを考える団体とのネットワークをご紹介します。今回は愛媛県の『えひめエネルギーの会』の活動を代表の藤井宣恵さんにご紹介いただきます。



えひめエネルギーの会メンバー

エネルギーや地球環境問題について知識や理解を深め、消費者の立場からの意見や正確な情報を地域に発信していくことを目的に、松山市および近郊に住む女性たちで2004年に設立しました。毎月の例会、学習会や施設見学、他の地域のエネルギー女性団体との交流やエネルギー講演会、シンポジウムへの参加などの活動をしています。

《活動の紹介》

6月27日に、設立5周年を記念して「いっしょに考えよう、ストップ温暖化！～低炭素社会のエネルギーを考える～」と題したエネルギーシンポジウム（コーディネーターは木元教子さん、パネリストは茅陽一先生、中村時広松山市長、パーソナリティのやのひろみさん、当会代表）を開催し、230名の参加者とともにエネルギーや地球温暖化問題について考えました。現在は、昨年より参加している愛媛大学での科学フェスティバルに向け、もったいないの視点から江戸の暮らしを考える紙芝居やクイズを製作中です。あすかエネルギーフォーラムと開催した3年前のトークサロンで、愛媛県内の女性の方々と、省エネからエネルギー問題にいたるまで活発な意見交換をしたことで、活動の幅が広がりました。

このごろのエネルギー

エネルギー事情についてシリーズでお伝えしていきます。

エネルギー学習会

あすかエネルギーフォーラム理事 清水 かほる

10月4日（日）に静岡県御前崎ふれあい福祉センターなごみにて『おまえざき・エネの会』の学習会が実施され、15名が参加しました。

「みんなで考えよう・新エネルギー」をテーマにクイズの問一答形式で秋庭悦子理事長が解説しました。参加者からは「理解していると思っていたことでもクイズで出題されると戸惑ったが楽しく学習できた」「新エネルギーに過度の期待をしていた」「太陽光発電の買取制度のコストは設備がない消費者も負担することに違和感がある」等の感想が寄せられました。

8月11日の地震で浜岡原子力発電所が自動停止したことから、原子力発電所の耐震性や地層処分について

の疑問や不安の声も聞かれ、おまえざき・エネの会の澤入節子代表から、「今回はその点を中心に、御前崎以外の地区の方にも参加を呼び掛けたい」と挨拶がありました。



クイズの様子

「近畿大学原子炉実験」研修会

あすかエネルギーフォーラム 大西理美

1961年の東京国際見本市で教育研究用原子炉として出品された、民間原子炉1号機 UTR=KINKI が今なお現役で、私たちを迎えてくれました。内容は講義「放射線の基礎」「環境中の放射線の測定」、メインイベント(!)「原子炉運転実習」では制御棒を抜いただけでは、反応が起こらないことや「未臨界・臨界・超臨界」という状態について。また「中性子線ラジオグラフィ」では中性子線とX線による透過写真の違い。講義「放射線の健康への影響」でした。

わずか1Wの出力しかない研究炉であっても、通常の発電用原子炉と同様の管理やIAEAの査察を受けていること、「なにが怖くてなにが怖くないか」ということを伝える努力。大学原子炉が国内にわずか3基しかないという現状には驚きを感じ、このような施設が増え、次世代への教育に活用されることが、エネルギーだけでなく産業分野でも不可欠な原子力の理解促進に必要なと感じました。実習により講義だけでは得られない理解が進みました。

お知らせ

■エネルギートークサロン in つるが

「～つるがで考える～未来のエネルギーと私たちの暮らし」 会場：敦賀観光ホテル

2009年11月18日(水) 独立行政法人原子力研究開発機構「もんじゅ」見学

11月19日(木) 10:00～13:30 福井県 女性エネの会との交流

■エネルギートークサロン in きょうと

「原子力の最新技術と私たちの暮らし」 会場：京都センチュリーホテル

2009年12月4日(金) 13:30～ 京都大学原子炉実験所見学

12月5日(土) 9:30～12:30 ネットワークグループの交流会

どちらもお問い合わせは あすかエネルギーフォーラム

TEL:03-5640-0777 FAX:03-5640-2636

e-mail:info@asca-ef.org

～編集後記～

天高く馬肥ゆる秋。エネルギー&クッキングでモグモグ。

えねるぎっしゅの原稿作成中もお菓子をモグモグ。私の体は発電中!

これって、高速増殖炉なみ?

文